

平成 29 年 6 月 20 日

平成 28 年度 学校関係者評価報告書

学校法人 杉野学園
ドレスメーカー学院
学校関係者評価委員会

平成 28 年度学校関係者評価について下記の通り評価結果を報告します。

記

1.学校関係者評価委員

- ・福永 成明氏 ファッションビジネス学会 理事
一般社団法人 日本アパレルファッション産業協会 委員
有限会社 ファッションリンクス 代表
- ・櫻井 武美氏 横浜ファッションデザイン専門学校 理事長
- ・黒部 和夫氏 株式会社松屋 MD 戦略室 コーディネーター
カルロインターナショナル代表

2.学校関係者評価委員会の開催状況

第 1 回委員会 平成 29 年 2 月 3 日 (金) 14 : 00 ~ 16 : 30 (場所 本校舎 3 階 会議室)

第 2 回委員会 平成 29 年 3 月 21 日 (火) 14 : 00 ~ 16 : 30 (場所 本校舎 3 階 会議室)

3.学校関係者委員会報告

別紙の通り

以上

教育目標と本年度重点目標の評価

今年度の重点目標は下記の2点と定めた

1. 高度アパレル専門科とアパレル技術科において、職業実践専門課程の申請に取り組み2月24日に認定された。
2. 各科の育成人材像と各科の到達点の明確化
上記については基準1において審議をした。

【関係者評価委員所見】

服飾系では、全国で2割程度が職業実践専門課程の認定を受けている。専門士の資格はあるが、さらに差別化を図ろうということが目的であろう。

文部科学省は職業大学をつくらうとしているが、職業実践専門課程はその前段階の基準となるので、認定を受けることは学校としての質保証に繋がると思う。

【課題・対策】

平成29年度は、服飾造形科、ファッションビジネス科も職業実践専門課程の認定に向けて申請する。

基準1 教育理念・目的・人材育成像

教育理念については、入学案内等で告知し、創設者の杉野芳子先生の建学の精神に基づき①挑戦（チャレンジ）の精神 ②創造する力 ③自立（自己実現）する力のこの3点を教育の理念に掲げ、「いい服には法則がある」をキャッチコピーとして教育にあたっている。

各科の育成人材像（別紙配布）

■服飾造形科（2年制）

〈育成人材像〉

販売職（服作りの技術を学ぶことで、着心地や服の価値を伝えることのできる販売員）

縫製職（服作りの理論と技術を身につけている）

アパレルデザイン科への進学

■ファッションビジネス科（2年制）

〈育成人材像〉

販売職（ファッションと流通機構を理解し、IT技術と提案力のある販売員）

■アパレル技術科（3年制）

〈育成人材像〉

パタンナー

■高度アパレル専門科（4年制）

〈育成人材像〉

総合職、企画職、デザイナー（クリエイション力とビジネス知識を兼ね備えた企業デザイナー）

■アパレルデザイン科（進学課程 1年制）

〈育成人材像〉

デザイナー（造形知識に裏付けされた、豊かな感性と表現力のあるデザイナー）

【関係者評価委員所見】

教育理念をどのように浸透させていくかが課題であろう。

入学案内に書かれてはいるが、学生にも浸透するようにした方がよい。

わかりやすいドレスメーカー学院（ドレメ）像を構築してはどうか。

【課題・対策】

学生への浸透に関しては、1年生のオリエンテーションで教育理念の話をするなど、対策をとる必要がある。

服飾造形科とファッションビジネス科は、ビジネスマナーの中で、正しいあいさつを指導して頂いている。それを全学年に広げて、あいさつのできるドレメ生を育成し、ドレメらしさを作り上げる方法もあるので学科長会議の中で検討したい。

基準2 学校運営

今年度は、学園全体の管理運営の中で「情報セキュリティの強化」の対策を行った。情報システム課が中心になり、対策計画の大綱とインシデントに関して2つの対処法を作成している。

【関係者評価委員所見】

大学の基準に合わせて学校運営を行い、対策を立てることで、専門学校としては、レベルが高くなり、よい傾向だと思う。

【課題・対策】

平成29年3月27日に情報セキュリティに関する教職員の研修会を実施した。

基準3 教育活動

自己評価報告書にて説明

【関係者評価委員所見】

経済産業省では、去年あたりから2020年代はどうなるのだろうという事をかなり真面目に意識しだしている。2020年代に向かってどういうシミュレーションを描いていますか。20年を契機に大きく変わっていくだろう。ということは教育改革もリンクしていかなければならない。

カリキュラムへの落とし込みまで、良くできているが、他の服飾の学校との差別化が感じられない。ドレメらしさや特長をカリキュラムや授業の中にどう落とし込み、強みにしていくのか、それぞれの科の中で1つでもよいので、“売りになる”ドレメらしさが必要なのではないか。

“技術のドレメ”が教育プログラムの中にリンクできて、初めてドレメらしさが見えてくるのかなと思う。

【課題・対策】

企業や高校生にわかりやすい、ドレメらしさを魅力として作っていかなければならない。

これから学科長と話し合って、来年度の自己点検の課題として取り組んでもよいかもしれない。

基準4 学修成果

就職は希望者に対して100%を達成した。

学習成果として検定試験の取得を明確にした。

【関係者評価委員所見】

就職実績がよいのは、素晴らしいことである。100%が維持できるよう努力を重ねてもらいたい。小田急百貨店だけの制度で、フィッティングアドバイザー制度という検定試験がある。3級、2級、1級に分かれていて、2級と1級はロールプレイを含んだ実技検定となっている。経済産業省はこのフィッティングアドバイザー制度を業界全体の資格にすることを検討している。このことを踏まえてファッションビジネス系の検定は、業界との接点を考えて取り組んだ方がよいのではないか。

【課題・対策】

現在、ファッション教育振興会の検定試験も大きく見直されている。本校は、そちらの検定を重視しているが、ファッション業界に通用する検定試験ができた時には、そちらも検討する。

基準5 学生支援

学生に対する就職支援は、きちんと行っており、今年度は100%を達成することができた。

今年度は、退学者が増加してしまった。

奨学金は、充実している。

【関係者評価委員所見】

最近の若い人は、やさしい人が多くなったがメンタル面が弱い。メンタルを昔の基準で判断するのは、違うと思っている。体育会系のメンタルを求めてはいないし、精神耗弱として扱われてしまうのも違うと思う。この業界を志向する学生は、他の業界よりデリケートな学生が集まりやすいため、それがとても大切な要素でメンタルの多様性をポジティブに導いてあげて欲しい。

【課題・対策】

専門のカウンセラーが相談にあたっている。対面だけでなくメールや電話で対応出来る方策をとっている。

基準6 教育環境

施設・設備は、教育の必要性に応じて、検討整備しており、メンテナンスも行っている。

産地見学などの研修、海外研修等については、充実した内容で高い効果を得ている。

防災に対する体制としては、災害対策本部制を設け、災害に対する訓練を教職員、学生を含めた訓練を行っている。

【関係者評価委員所見】

情報セキュリティとも関係するが、Wi-Fi 環境を整備した方がよいと思う。今や IT 化は当たり前で、スマホで Wi-Fi にアクセスできる環境を整えることは、学生募集にも有利に働くのではないだろうか。

【課題・対策】

平成 29 年度の予算は確定しているため、平成 30 年度に向けて情報システム課と検討していきたい。

基準7 学生の募集と受入れ

近年、入学者数は年々減少している。平成 28 年度入学者数は、昨年度に比べて少し増加した。定員充足のために教育内容の充実、オープンキャンパスの工夫に一層努力する。

基準8 財務

平成 28 年 3 月に杉野学園第 2 期中期計画を策定した。ドレスメーカー学院は、この第 2 期中期計画に沿って平成 32 年度までに入学定員を確保し、ドレスメーカー学院自身の収支均衡を図る。

【関係者評価委員所見】

基準 8 財務を良くするためには、基準 7 学生の募集と関連するのでまとめて所見を述べます。

「平成 32 年までに入学定員を確保し、ドレスメーカー学院自身の収支均衡を図る。」とあるが、具体的にどうするかわからない。特記事項のところにある「入学者の増加を図ることによって、事業活動収支を改善することが急務である」とありますが、これは解決法ではないと思います。

【課題・対策】

平成 28 年度のオープンキャンパスは、昨年と同じ事を繰り返してしまったため、入学者が減少した。マンネリ化したことが最大の反省点である。平成 29 年度からのオープンキャンパスは、新たなプランニングを入試広報課と教員で始めた。毎年、新しいプランを考え、新たな気持ちで学生募集に取り組むようにする。

基準9 法令の遵守

法令、設置基準などの遵守と適正な運営については、学則、規程、規則等を、法令、設置基準に基づき策定している。

【関係者評価委員所見】

特になし

【課題・対策】

改正があると速やかに対応し、広く社会の信頼を得ることに努めている。

基準10 社会貢献・地域貢献

品川区、目黒区の様々なイベントに積極的に参加している。

地域の小学生を対象に、服飾のものづくりの楽しさを知ってもらうイベント“ドレメ・キッズ・スクール”を開催している。

【関係者評価委員所見】

社会貢献についても、学生が能動的に社会貢献していくことが必要である。

自己点検には記入されていないが、アパレル技術科のリメイクの授業ではエコロジーから洋服解体まで教えており、いつも縫っている学生がほどく技を知ることによって、今までと違うものが芽生えてくる。そこから自発的な社会貢献やサステイナブルな意識に繋がるので、授業で行うことで発展性を感じる。

【課題・対策】

服飾造形科以外の科は環境科学やリメイクなどサステイナブルの授業と取り組んでいるため、何ができるか考えていきたい。